

# センターだより

第67号

発行  
平成19年7月



## もくじ

|                                    |   |
|------------------------------------|---|
| シリーズ スポーツ訓練 (各種ゲームスポーツ) について ..... | 2 |
| 平成18年度 利用者食事調査結果 .....             | 3 |
| 職能訓練について .....                     | 4 |
| 利用者の日常生活 .....                     | 5 |
| 行事アラカルト .....                      | 6 |
| 「頸髄損傷者リハを考えるシンポジウム」について .....      | 7 |
| 職員による宿日直業務(勤務)の廃止について .....        | 7 |
| 別府を震源とする地震が発生 .....                | 7 |
| 利用者募集の案内等 .....                    | 8 |

指定障害者支援施設

国立別府重度障害者センター





# スポーツ訓練 (各種ゲームスポーツ) について



運動療法士 木畑 聡

今回は、スポーツ訓練の紹介です。リハビリテーションの中にスポーツが…？いったい何をやるのだろう？など、素直に疑問を持たれるかもしれません。スポーツを用いたリハビリテーションは、東京オリンピック前後から国内各所で行われるようになりました。国際的にはヨーロッパを中心に第二次世界大戦後から取り組まれているという大変歴史の古い分野です。当センターでも平成に入ってからスポーツ訓練部門として実施しています。

さて、最初の疑問に戻ります。当センターでは、利用者の方の社会復帰に向けた様々な支援を行っています。多くの方は、ADLの自立が最も重要な目標です。ADLの自立には、体力が必要ですし、身体を上手に使う能力も必要になります。一方で、社会復帰に必要なのはADLだけではありません。より豊かな生活を送るためにも趣味を持ったり、他の人とも交流しながら社会とのつながりを持つ必要があります。スポーツ訓練では、スポーツの持つ様々な特徴をうまく使いながら、前述したことを支援しています。

体力をつけたり、身体を上手に使えるようになるために、スポーツの持つ特徴がうまく使えます。これらの能力をつけるためには大きく2つ方法があります。ひとつは、車いす走や車いす操作練習を通して能力を高める方法です。大変効率的ですが、単調な部分もあり自分に少し厳しくなる必要があります。もうひとつが、ゲームスポーツを通して能力を高める方法です。この方法は、「気がついたら体力がついていました！」的な訓練方法で、自分に優しい方にも抵抗感なく取り組めると思います。今回は、この「各種ゲームスポーツ」について簡単に紹介します。



ボールを使用したゲーム

各種ゲームスポーツには、サッカー・野球・ラグビーからバスケット、はたまたボクシングからカーリングに至るまで様々です。といっても、オリジナルのゲームのルールや用いる道具を変更して、利用者の方が楽しめるように様々な工夫が施されています。訓練中、利用者の方は大きな声を出していますし、訓練担当の私ですら訓練中に笑っていますから、傍らから見ると遊んでいるようにしか見えない場合もあります。それでも、このような状況であれば訓練としては大成功なのです。いかに楽しく、熱中してもらえるかが最大のポイントだからです。というのも、そのゲームの中に、「利用者の皆さんが熱中すればするほど、より効果があがる」ちょっとした秘密が隠されているからです。熱くなるほどに体力がついたり、バランスが良くなったり、車いす操作がうまくなるのです。そんな仕掛けを日々わくわくしながら考えています。ここ数年で種目数も増やしてきました。そろそろネタが尽きてまいりましたが、これからもさらに楽しく皆さんのリハビリになるような種目を考えていくつもりです。こう御期待。



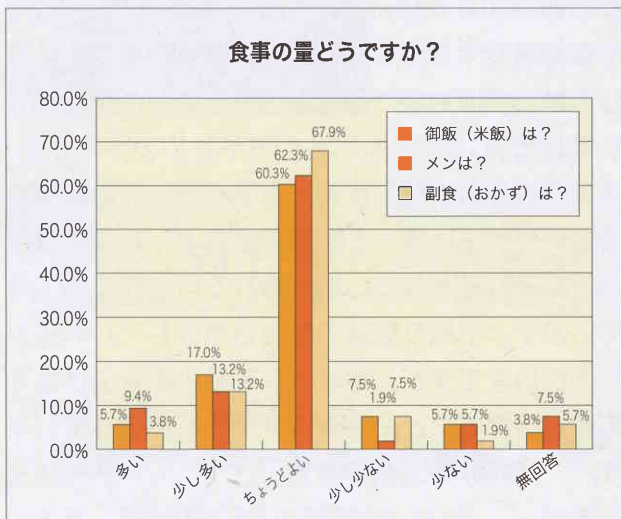
## ● 平成18年度 利用者食事調査結果 ●



栄養係長 松岡 里佳

当センターでは、毎年、利用者の皆様に食事調査(嗜好調査)を実施しています。平成18年度は、平成19年2月19日より、①パソコンによる回答、②調査用紙記入による回答、③職員の聞き取りによる回答のいずれかの方法で利用者全員(53名)の方のご協力をいただき、約1週間実施しました。その結果をご報告します。

### 1. センターの食事について



このグラフは食事の量についての回答です。「ちょうどよい」が、御飯・メン・副食(おかず)ともに約65%ありました。少ないという回答よりも多いという回答がほんのちょっと上回っているという結果が出ました。

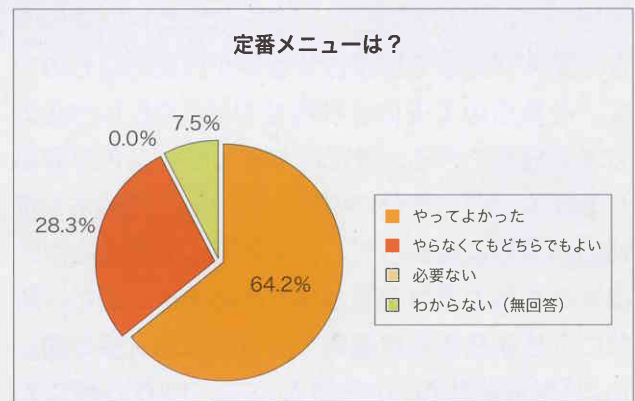
またセンターの調理については、盛付・味付が「まあまあ(ふつう)」と回答された方が半数以上(約53%)を占めていました。しかし味付が悪いと回答された方が、約24%(12名)もいました。その理由では、「もともと味付けが合わない(2名)」、味付けが「薄い(6名)」と「濃い(4名)」があり、嗜好に合わせる難しさを感じました。

その他、嫌いな献立のベスト3が「魚料理」・「納豆」・「酢物」でした。給食に対する意見要望では、「肉料理が多すぎる」や「漬物が嫌いなので出さ

ないで」「お刺身がもっと食べたい」などの嗜好の他に、「汁物をもっと熱くして欲しい」「中華の時、唐辛子が利きすぎていることがある」という調理に対する意見要望などたくさんありました。また、「いつもありがとう」という温かいお言葉もいただきました。

### 2. 定番メニューについて

昨年11月から、通常メニューの他に6種類のメニュー(ビーフカレー・月見うどん・ハンバーグとたらフライ・五目チャーハン・ラーメン・えびと貝柱のフライ)を月・水・金の週3回の昼食に1つずつ入れて、通常メニューと選択ができるようにしたものが、名づけて「定番メニュー」です。これを評価してもらったグラフです。



約64%の利用者の方に「やってよかった」との評価をいただきました。定番メニューの内容については、「まあまあ(ふつう)」が約32%、「大変よい」「よい」が合わせて約31%という結果でした。

今回の食事調査は、全体的には“ちょうどよい”という回答が多く、まずまずの結果でした。障害者自立支援法施行に伴い、平成18年度より利用者の皆様には食費の実費負担をしていただいています。これからも、たくさんの利用者の方に食堂を利用していただけるよう改善していきたいと思



# 職 能 訓 練 について

職能訓練室

職能訓練は、昭和42年頃まで作業訓練として多量の訓練を実施しており、授産としての物作りも行っていました。時代の変化と共に科目も変わっていき、平成9年より現在の5コースで実施しています。今回はいつも訓練の対応をしている講師のみなさんより各コースの紹介をしていただきます。

## 1. トールペイント

トールペイントとは、木製品にアクリル絵の具で絵を施す手工芸です。初心の間は、デザインや配色を模倣することにより、マスターした技法を図案に沿って描けば、絵心のない方でも描く事ができます。センターでは、ドイツとアメリカの技法を中心に実施しています。一般のテクニックとして欠かせない技法については、数々の改良を行いました。例えば、筆を全くひねらずに描く方法、筆圧が弱いことを利用して描く方法、自助具の向きを変え安定感を増幅させる等が代表的なものです。それらの工夫により現在では、C5レベルの方まで描画できるようになりました。混色が容易な油絵や食器の絵付けの導入など、単に技法や筆使いの習得に留まらず、個々の感性や個性を引き出すことも大きな課題となっています。また、新たに5月より色の基礎を学ぶ色彩講義を始めました。「赤+青は？」から始まって、色彩心理にも触れています。訓練の最終目標は自営活動です。作品の販売から、指導者としての活動までを目指しています。そして現在多くの修了生の方々が、各地で活動されています。（講師：岩佐ゆかり）



## 2. 手織り

手織りコースでは、利用者さんのイメージ通りに布を織り、マフラーやショール、洋服、インテリア用品などに仕立て、生活に根ざした作品制作を目指しています。誰でも織ることのできる織機が大阪で考案されて以来、いろんな色や太さの糸を使い自由に遊び心を持って織るという織り方は、今、世界各地で広まっています。センターの訓練では、その織機を使用して布を織っています。個人に合わせて機織りの改造を行い、いかに楽しんで手仕事のぬくもりが伝わる布を織ることができるか、一緒に考えながら訓練を行います。その結果、今ではC5レベルの方も織る作業に関しては、ほぼ独力で作業を進めることが可能となりました。C3不全レベルの方や片手のみの方も、手の伸び具合や肩の反動を上手く使っての織り方や道具の工夫を行っていきますので、作業のリズムが生まれると共に、布が織れる可能性ができています。手織り訓練の最終目標はトールペイント同様自営ですが、地域での活動の場を広げ生活の糧とし得るなどの生活スタイルも提案しています。（講師：野上奈津美）



## 3. パソコン(情報処理・事務・ワープロ)

パソコン訓練では初期の段階で道具の検討を行うとともに「文字入力・マウス操作・画面の見やすさ」の3点を確認する必要があります。文字入力については、腕の動きにあわせ、使用するキーボードを決めます。自助具を用いた入力だけでは

なく、腕の動きを制御するものを使用したり、パソコンへの設定も有効となります。マウス操作ではトラックボールを使用しますが、口の動きと息で操作する呼気マウスやタッチパネル等も使用し



ています。最後の画面の見やすさについては意外と大きなポイントであり、文字の大きさ、画面の色の具合だけでも疲労の度合いが変わりますので意識をして利用者さんに合ったデザインの設定を行います。課題としては、資格取得対策や実務レベルで



の取り組みの他、生活に密着した利用の提案も行っています。

最近の試みの中にパソコン利用の幅を持たせてインターネットを活用した「脳トレ」等を課題としています。また、パソコン自体が特別なものではなく「一家に一台パソコン」という時代になりましたので今後もよりパソコンを身近な生活道具として利用する方法を提案していきます。

(講師:森本雪代、仲野太裕)

職能訓練は必要ないとおっしゃる方も少なくありません。しかし、センターでなければ経験・習得できない技能や知識等のノウハウを蓄積しています。利用者の障害特性、作業スピードに添った教授方法に基づき訓練プログラムを作成しております。充実した職能訓練を送るためにも、ご意見ご要望がありましたら遠慮なくスタッフにお申し付けください。

利用者の

## 日常生活

### ● 利用者・職員合同 懇親バーベキューの開催



去る、6月9日(土)に懇親バーベキューを開催しました。これは、日頃から訓練に追われている利用者「ここで一息」についていただくという趣旨で職員の有志が開催しました。

当日の朝は雨がぱらつき、開催が危ぶまれましたが、スタート時には止み、曇天ではありましたが心地良い風が吹き、バーベキューには最高の日よりとなりました。

また、利用者・職員の懇親を深めることもでき大変有意義な会となりました。今後も、このような会を引き続き開催していきたいと考えております。



### ● パソコン室



利用者が自由時間を有効・有意義に過ごすために個人所有のパソコンを設置できる部屋が「パソコン室」です。プロバイダーとの個人契約(自己負担)によりインターネットが利用できます。ホームページを開設したり、ニュースや芸能情報、ファッションの情報に目をとおすすめ人やゲームを楽しんでいる人、使い方はさまざまです。





# 行事アラカルト

## 第2回大分県障がい者スポーツ大会

指導課 山下 庄二

5月26日(土)、第2回大分県障がい者スポーツ大会が開催され、センターからものべ8競技に25人が参加しました。

金12個、銀5個、銅1個を獲得しました。



野口選手(電動車いすの部):メダルを獲得し、満面の笑み

## 春のスポーツ大会2007

指導課 山下 庄二

5月16日に春のスポーツ大会が開催されました。利用者を主体にした実行委員会の企画・立案により「バトルロイヤル」「ゴロサッカー」「パン喰い競走」等を楽しみました。

高森実行委員長の開会宣言により隣接する青山保育園の園児の声援のなか紅・白組の熱戦の火ぶたが下ろされました。途中から雨のため場所を体育館に移動してのスポーツ大会になりました。

結果は、白組が昨年の雪辱を果たして優勝。利用者 と職員の親睦を図り、厳しい訓練の一時を忘れた一日でした。



興奮度も最大級:ゴロサッカー

## 「友情のホタル贈り」

指導課 郡山 潤子

を使って「ホタル」について学習を行い、全学年の授業の中で命の尊さや自然や環境の大切さについて学んでいます。

また、地域の方々もPTAを対象に環境保全の説明会を開くなどして、「ホタル贈り」が継続して行われているとの報告がありました。

ホタルの数は少なくとも、ホタルを縁にした交流は続けていきたいと思っています。

この交流が児童の心の福祉教育に少しでもお役に立つことを願っています。



訓練(手織り)を体験する児童

今年も竹田市立南部小学校から「友情のホタル」が届きました。

6月7日(木)、学校関係者(6年生児童27名と校長・担任等)及びPTA役員等42名がセンターを訪れ、交流を図りました。

学校では、毎年、3年生が総合的な学習の時間



「荒城の月」等の演奏を披露する6年生全児童

## 「頸髄損傷者リハを考えるシンポジウム」について

指導課 野口 勝好

頸髄損傷者のリハビリテーションを実施してきた国立別府及び伊東重度障害者センターが協力して、①地域で自立した生活をしている修了生から生活と今後解決が望まれる課題を当事者の視点から明らかにして頂くこと ②自立訓練事業を実施している両センターの自立に向けたPT、OT訓練の取り組み状況について、現状の評価と訓練内容について議論を深めることを目的に平成19年3月17日(土)に戸山サンライズでシンポジウムが開催されました。

別府センター出身の甲斐さんからは、「一般の

人と同条件で仕事がしたいが、今後の身体状況や生活上の問題等を相談するところがない。より充実した地域生活を送るよう支援体制、社会の仕組み、ネットワークがあればいい。」との発表がありました。また、橋口さんからは、「親の反対をおして別府センターに入所した。何とか親に理解をしてほしいと訓練に頑張った。今後の生活に不安があるが、自分が選んだ道には責任がある。」と力強く話しをされていました。

シンポジウムで提起された課題を平成19年度において、更に議論を深める予定です。

## 職員による宿日直業務(勤務)の廃止について

庶務課

センターでは従前から、利用者の生活補助・庁舎の保安全管理等を目的とした職員による宿日直業務(平日17時15分~8時30分、休日24時間)を行ってまいりましたが、平成19年7月1日より廃止することとなりました。

これは、センターが障害者自立支援法に係る「障害者支援施設」の指定を受け、休日・夜間における職員の勤務体制が「看護・介護職員2名」が常勤していることから宿日直勤務者を配置する必要がなくなったためです。

今後、夜間・休日に勤務している者は、職員2名・委託警備員の3名となりますが、利用者サービスの低下になることがないよう努めてまいりたいと考えております。

なお、宿日直業務廃止に伴い、センターでは次の取組みを行いました。

- ①利用者の外周訓練コース等における防犯カメラの設置
- ②警備員による所内等巡回方法等の見直し
- ③職員緊急連絡網等の強化整備

## 別府を震源とする地震が発生

庶務課

6月6日、午後11時05分頃から6月8日にかけて大分県中部(別府市)を震源とする地震が頻発しました。震度4(注:かなりの恐怖感があり、一部の人は身の安全を図ろうとする。)が3回、震度3(注:殆どの人が揺れを感じる。揺れの時間が長く続くと不安や恐怖を感じる人が出る。)が6回、震度2(注:屋内にいる人の多くが揺れを感じる。電灯のひもが揺れる。)が16回、震度1が38回でした。

センターの被害は、

- ① 数回に渡るエレベータの停止

- ② 数回に渡る防火扉の作動
- ③ 体育館入り口のひび割れの発生
- ④ 中央廊下の天井パネル及び天井照明器具のずれ等
- ⑤ 厚生棟のスプリンクラーヘッド周りの部品の落下及び天井パネルとのずれの発生
- ⑥ 1寮外のプロパンガス供給停止等でした。

数日間、地震の恐怖を感じながら過ごしましたが、利用者さんへの直接的な被害はありませんでした。

注:( )内は気象庁ホームページによる



## 過去1年間の自動車運転免許証取得支援状況

平成18年7月1日～平成19年6月30日

| 区分 | 新規取得     | 更新        |
|----|----------|-----------|
| 計  | 4 (1) 注1 | 11 (2) 注2 |

注1 ( )内数字は、現在教習中の数の再掲

注2 ( )内数字は、更新できなかった数の再掲

## 修了生の状況

平成19年1月1日～平成19年6月30日

| 復帰形態  | 家庭復帰 | 在宅就労 | 職業訓練校 | 自営  | 他施設  | 計     |
|-------|------|------|-------|-----|------|-------|
| 人数    | 7    | 0    | 4     | 0   | 2    | 13    |
| 比率(%) | 53.8 | 0.0  | 30.8  | 0.0 | 15.4 | 100.0 |

## 職員異動

平成19年3月31日

○ 退職

|            |                   |
|------------|-------------------|
| 医務課看護師     | 佐々木英子             |
| 医務課看護師     | 鈴木さとみ(任期付職員)      |
| 指導課生活支援専門職 | 山崎 朋子             |
| 指導課生活支援員   | 笠木 洋寿(臨時的職員 任期満了) |

平成19年4月1日

○ 転出

|          |  |
|----------|--|
| 庶務課長     | 下田 俊孝(国立塩原視力障害センター庶務課長)                |
| 会計係長     | 寺上 省吾(国立函館視力障害センター指導課入所者援護係長)          |
| 庶務課庶務係   | 千田美香子(国立身体障害者リハビリテーションセンター管理部総務課厚生管理係) |
| 指導課生活支援員 | 木村 宏輝(国立函館視力障害センター指導課生活支援員)            |

○ 転入

|            |   |
|------------|---|
| 庶務課長       | 斉藤 孝三(関東信越厚生局社会福祉監査官)                         |
| 庶務課会計係長    | 石毛 利宏(国立神戸視力障害センター庶務課庶務係)                     |
| 庶務課会計係     | 佐藤 智治(国立福岡視力障害センター庶務課会計係)                     |
| 指導課生活支援専門職 | 山下 庄二(国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所指導部指導課生活支援専門職) |

○ 新規採用

|          |       |
|----------|-------|
| 医務課看護師   | 川口 真弓 |
| 指導課生活支援員 | 川辺 明子 |

平成19年5月11日

○ 新規採用

|          |       |
|----------|-------|
| 医務課作業療法士 | 佐藤 裕也 |
|----------|-------|

## 利用者募集のご案内

当センターは、平成18年10月から障害者自立支援法による指定障害者支援施設となり、自立訓練(機能訓練)を実施しています。また、これらを利用する方々に対して、必要に応じて施設入所支援を行っています。

受付は随時行っていますが、利用にあたっては、「受給者証」が必要となりますので市区町村の福祉担当窓口にご相談下さい。

### お問い合わせ先

国立別府重度障害者センター指導課  
 電話 0977-21-0182 (相談・受付窓口直通)  
 FAX 0977-21-2794  
 E-mail soudan@beppu-nrh.go.jp  
<http://www.beppu-nrh.go.jp>

企画 国立別府重度障害者センター  
 発行 〒874-0904 別府市南荘園町2組  
 TEL 0977-21-0181